

住宅リフォームに1億円

工事費の10%、上限20万円を助成

7月29日に市議会7月臨時会が開かれ、新型コロナウイルス対策の補正予算（第4号・6億8千万円）が審議・議決されました。今回の予算は、すべて国の第2次補正予算の「地方創生臨時交付金」を財源としています。その主なものを紹介します。

◎経済対策住宅リフォーム等促進事業費 1億円

市民の居住する住宅のリフォーム工事にかかる費用の10%（上限20万円）を助成します。市内に本店・支店・本拠をおく施工業者に工事をしてもらうことが条件です。増改築（10㎡以下）、塗装、防水、畳やふすまの交換、トイレや台所、建具の修繕など多くの工事が対象になります。

ちょっとした修理から本格リフォームまで、地元の業者さんに頼めば10%安く出来ます。また、業者さんもコロナ不況の中、仕事が増えて助かります。いわば消費税が実質ゼロになる効果があり、断然お得です。来年3月までに完了するように、早めに検討・申請しましょう。

かつて2013年度にも行われ好評でしたが、その時は予算枠3千万円、上限10万円で、翌年にも継続を求めましたが打ち切られました。今回は予算は3倍、上限は2倍になって復活しました。

◎障がい者の方に1万円の商品券 1億1千万円

◎ひとり親の児童にも1万円の商品券 2100万円

◎ひとり親世帯に特別給付金 1億9千万円

身体・精神・療育の手帳をお持ちの方に、「鈴鹿まるごと応援券」が送られます。また、児童扶養手当を受給するひとり親世帯に5万円＋第2子から1人3万円と商品券、収入減少世帯に追加5万円が支給されます。

[鈴鹿市PCR検査センター]を設置

コロナウィルス感染防止の決め手は、PCR検査です。韓国や中国、ドイツ、ニューヨーク市などが、徹底したPCR検査でコロナ拡大を抑え込んできたことが報道されています。しかし日本では、「検査のやり過ぎは医療崩壊を起こすから、数を絞る」という間違った国の姿勢により、いまだに「濃厚接触者に限る」などを基本にしています。日本共産党は、PCR検査の抜本的拡充を政府に強く求めています。

鈴鹿市医師会が市消防本部敷地内にセンター設置

鈴鹿市では、6月15日から「鈴鹿市PCR検査センター」が設置されています。運営主体は鈴鹿市医師会、場所は消防本部（中央消防署）の敷地内、実施日は平日の午後1時30分～2時30分、最大1日16件、医師2名が交代で当ります。検査費用は公費負担ですが、診察は通常の自己負担があります。

【PCR検査の手順、流れ】

①市内の医療機関で相談・受診⇒PCR検査が必要と医師が判断⇒②鈴鹿市医師会に連絡・センターに予約⇒③医師から「唾液用採取容器」が渡され、1～2mlの唾液を採取⇒④予約された時間に検体の入った容器を、車でセンターまで持参し提出する⇒⑤民間検査機関（SRLという会社）で、陽性・陰性を判定⇒⑥判定結果を医師会経由で受検者本人に通知する（陰性の場合には文書郵送・陽性の場合には医療機関と保健所にFAXで速報⇒本人に報告・自宅待機を要請）⇒鈴鹿保健所が陽性者に、指定医療機関での受診を指示。

かかりつけ医師の判断で検査を受けられる体制

PCR検査の受け方は、従来の保健所（帰国者・接触者相談センター）に相談するルート以外にもう一つ、かかりつけの医院からのルートが出来たこととなります。それにしても、1日最大16件の能力では、いざ感染が広がってきた場合の対応ができるのかが不安です。頼みの保健所はコロナ問題が起こってきた2月から、電話が繋がらない、相談に応じてもらえないなどの苦情が殺到するなど、体制がまったく不十分な状態です。

三重県・鈴鹿市でもウィルス感染者が少しずつ増えてきています。市民の不安をなくすための検査体制の整備は、焦眉の課題です。

教育 I C T の現場を視察しました

7月16日、文教環境委員会のメンバーで、市内の白子中学校と旭ヶ丘小学校、またリフォームされた体育館と清掃センターも視察しました。

先生の負担へらし、よく分かる授業を工夫できる

今年度から I C T 機器が導入された学校の授業風景を見せてもらいました。黒板とチョークに代わってプロジェクターに映された画像、書画カメラからの画像で授業を進めます。

先生がテレビのお天気番組のように自在に画面を操り、書き込みも出来ます。先生方の感想は、「作った一つの教材を、どのクラスにも使えるので、楽になりました。」「写真や図表も動画もカラーで見えます。」



白子中にて。プロジェクターに画像を映す



旭ヶ丘小にて。全員がパソコンを操作

全員が手元のパソコンに自分の文章を入れると、前のプロジェクターに全員の文章が映される便利さ。

まだパソコン室だけですが、今年中には全員に1台が配備されます。うまく使えば、先生の負担をへらしながら、子どもたち全員に目が届くようにも出来ます。しばらくは試行錯誤ですが、

I C T が学校現場にゆとりをもたらして、子どもたちが楽しく勉強できることを願います。

コロナ感染対策もしながら

小学校の給食の時間。2年生の子がマスクもフェースシールドも付けて、配膳を頑張っていました。両方を付けて仕事するのは大変そうでした。

旭ヶ丘小にて



ずいそう



無言館の絵が語りかける

戦争で死んだ若き画学生が残した作品をコツコツ収集、展示している慰霊美術館が長野県上田市の「無言館」です。館主の窪島誠一郎さんが画家の野見山暁治さんと共に、全国の戦没画学生の遺族を訪ね歩いて、大事に保存されてきた絵を預かり、1997年上田の丘の上にオープンしました。現在130人の作品が収蔵されています。

私は開館の翌年、名古屋での巡回展覧会を観て、感銘を受け、その何年後かに信州の旅で「無言館」を訪ねました。

四日市で展覧会開催中です

もう一度行きたくて一昨年秋、共産党鈴鹿市後援会で「ちひろ美術館と無言館を訪ねる」バスツアーを企画し、楽しみにしていたところが、なんと当日に台風が三重県から長野県を直撃、中止になりました。去年は選挙などで行けず、今年はコロナ禍で出かけられず。いつの日にか行きたいなと思っていたところ、7月18日～9月6日に四日市市博物館で戦後75年記念「無言館展」があると知り、さっそく初日に出かけて、ゆっくりと観ることができました。皆さんも、またとない機会ですので、ぜひお出かけ下さい。



佐久間修 「静子像」

無言館の絵は、ほとんどが20代の無名の画学生の作品ばかりです。もし戦争が無かったら、その才能を花開かせたかもしれないけど、その前に亡くなった若者ばかりの絵です。もし「鑑定団」にかけても、良い値がつくものは多分ないでしょう。窪島さんと野見山画伯は、どんな美術館を建てるのか議論する中で、「たとえ一点一点の絵が未熟であっても、それが一堂に会すれば何か別の大きなひびきになって聞こえてくる。技術のうまいヘタなどとは関わりのない、その絵じたいが持っている命の重さ、その切ない声がオーケストラとなって聞こえてくる場所」それが無言館だと語り合ったのでした。実際に絵の前に立つと、その「ふしぎな迫力」を感じることができます。